

【執筆者一覧】

市川貞男(放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2011 年 3 月修了)
川島一秀(放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2011 年 3 月修了)
鈴木重夫(放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2010 年 3 月修了)
鵜田憲司(放送大学大学院文化科学研究科修士課程 2010 年 3 月修了)
小川正人(放送大学大学院文化科学研究科・人間発達科学プログラム 教授)
(東京大学名誉教授)

【編集後記】

本号は、小川研究室所属の 2010 年度修士課程修了生 2 名と 2009 年度修士課程修了生 2 名、そして、私の論文・調査報告を掲載しています。市川論文と川島論文は、2010 年度の修士課程修了論文をベースに書き直したものです。鈴木論文と鵜田調査報告は、修士論文を書き上げ修士課程を修了した後も、ご自身の研究作業を日々の仕事の合間をぬって継続してきた成果の一部です。

東日本大震災から 1 年が経ちました。「復興」と言うが、いまだ「復旧」途上の被災地の現状を見て気が重くなるには私だけでないと思います。何かできないかという思いで始めた被災地岩手県の教員リフレッシュ研修(先生おでんせプロジェクト)は、小川ゼミの修了生や在籍院生から多くの協賛金を頂き成功裏に終了しました。現在、その実施報告書を作成中で、4 月以降には協賛を頂いた方にお届けできると思います。その「先生おでんせプロジェクト」の情報交換会で、被災地の関係者から、「私たちが一番恐れるのは、忘れ去られることです」との言葉を何度も伺った。「風化」させないこと—私達の責務と考えますし、そう遠くない将来に起こるであろう首都直下大地震への準備・構えとしても心に刻んでおきたいと感じています。

次号は、2011 年度修士課程修了者の修士論文を中心に修了生や在籍者の論考・調査報告を掲載する予定です。多くの方々の寄稿を期待しています。

(小川正人)